

## (5) 令和2年度 学校運営連絡協議会 実施報告

### 1 組織

#### (1) 都立清瀬特別支援学校 学校運営連絡協議会

#### (2) 事務局の構成

副校長、統括主幹教諭＝事務局長、教務担当主幹教諭 計3名

#### (3) 内部委員の構成

副校長2名、経営企画室課長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（小学部担当）、主幹教諭（中学部担当）、主幹教諭（高等部担当）、主幹教諭（総務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路担当）、主幹教諭（教育相談担当） 計11名

#### (4) 協議委員の構成（敬称略）

中西 郁 （十文字学園女子大学 教授） 評価委員長兼務  
内田 賢 （東京学芸大学附属特別支援学校 校長）  
岩澤寿美子 （清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ 園長） 評価委員兼務  
高岸 聡子 （東京都東村山福祉園 園長）  
水野恵美子 （清瀬市立清瀬第三小学校長）  
小池雄志郎 （清瀬市立清瀬中学校長）  
新井 勘資 （清瀬市役所 健康福祉部 障害福祉課 課長）  
飯島 一憲 （社会福祉法人 恩賜財団東京都同胞援護会さいわい福祉センター 所長）  
稲森 直孝 （東村山市社会福祉法人 障害者地域自立生活支援センター るーと センター長）  
西村 俊輔 （パーソルサンクス株式会社 事業本部長）  
安原 典之 （清瀬市障害者福祉センター学童クラブのびのび 担当責任者）  
谷口 薫 （本校PTA会長） 評価委員兼務  
計12名

### 2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

#### (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 令和2年10月に紙面開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による）

送付資料として ①令和元年度清瀬特別支援学校学運協報告書、②平成31年度 東京都立清瀬特別支援学校 学校経営報告、③令和2年度年間行事予定、④学校経営計画における重点項目の取り組みについて(概要版)、⑤臨時休校及び分散登校期間の取り組みと新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策について(概要版)、⑥協議書

第2回 令和2年10月30日（金）内部委員10名、協議委員5名

令和2年度 学校経営計画重点項目について、令和2年度 学校評価について、学校の「新しい日常」の定着に向けての取り組みと教育活動の充実について、協議

第3回 令和3年1月14日（木）に紙面にて開催

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）

送付資料として ①学校評価アンケート集計・分析結果報告(保護者・高等部生徒・近隣地域住民)、②次年度に向けた課題の確認

#### (2) 評価委員会の開催日、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和2年10月 紙面にて開催

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和2年10月30日（金）評価委員3名、事務局3名

学校評価アンケート内容の検討

第3回 令和3年1月14日（木）紙面にて開催

学校評価アンケートの結果・分析結果報告、令和3年度に向けて学校評価のまとめ

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) アンケート調査の対象・規模・回収率（実施時期：10月）

- 保護者アンケート（今年度はMicrosoft formsにて実施） アンケートURL及びQコード  
配信数364 回答人数236 回答率65%（昨年比-14%減）
- 高等部生徒アンケート 重度重複学級・普通学級職業基礎類型 生徒66名 普通学級職業基礎・自立類型 生徒50名 計116名 回収率97%
- 近隣地域住民アンケート（今年度はMicrosoft formsにて実施） アンケートURL及びQコード  
配付総数50 回答人数29 回答率58%

#### (2) 主な評価項目

- ① 保護者アンケートは、前年度の設問項目の表記を整理し実施した。「学校全般」「学習指導」「副籍・進路指導・生活指導」「保健・給食」「教員の働き方改革」「安全対策」の6項目、29問とした。また、意見や感想を取り出しやすくするため、自由意見の欄を項目ごとに設けた。今年度、学校経営計画に基づく取り組みに対する周知度を確認する質問を取り入れた。
- ② 高等部生徒アンケートは、生徒の実態及び類型に沿ったアンケート用紙を作成し、実施した。今年度新たに部活動に関する満足度を確認する質問を取り入れた。
- ③ 地域住民アンケートは、今年度新たに近隣の自治会を通じて、地域住民に実施した。「本校への来校経験」「本校児童・生徒に関して」「特別支援教育に対する理解度」等について項目を立てた。

### 4 評価結果の概要

#### (1) 保護者アンケートから

今年度は保護者アンケートの回収率が65%であった。今年度は、アンケート用紙を配布するやり方からMicrosoft formsのアンケート機能を使用しオンラインで実施した。各自の端末から何時でもアンケートにアクセスできる利便性が向上した半面、慣れていないことから回答に消極的な声もあり、回収率に影響したと思われる。次年度は、このやり方でも、回収率が上がるよう質問事項を整理し、短時間で、回答しやすいアンケートの作成及び保護者への事前の丁寧な周知に取り組んでいく。また、保護者の意見をより受け止めることができるよう、アンケートへの回答をPTA役員会と協力しながら呼び掛けていく。

- ① 良い評価を受けた項目（「あてはまる」「ややあてはまる」と評価した人の割合が80%以上である項目及び前年度から10%以上評価があがった項目）
  - ・「個別指導計画は分かりやすい」「社会生活を送るうえでのルールやマナーなどの指導を行っている」「教員はあいさつ、身だしなみ等の社会人としてのマナーを身につけている」「安全でおいしい給食を提供している」「本校からの配布物はわかりやすい」
- ② 今後も推進していく項目（学校評価アンケート分析結果から、改善がある必要があるとされた項目）
  - ・「発達段階や障害特性に応じた分かりやすい授業づくり」「地域における学校間交流や、居住地における副籍交流の推進に取り組んでいる」「発達段階や障害特性に応じた基本的な生活習慣の指導の充実」については、今年度新型コロナウイルス感染症の拡大により、授業参加や交流の機会がほとんどなかったことも影響していると思われる。

#### (2) 高等部生徒アンケートから

##### ① 良い評価を受けた項目

学校生活について52%の生徒は学校生活が「楽しい」と感じており、14%の生徒が「楽しくない」に回答していた。「楽しい」との回答を増やすため、生徒にとって学校が主体的に活

動できる場であるような取り組みを教育活動の中で増やしていく必要がある。

## ②今後も推進していく項目

- ・設問「友達にいやなことを言ったり、やったりすることがある」と、「友達からいやなことを言われたり、やられたりすることがある。」というものに「はい」と答えた生徒がそれぞれ6%、6%であった。減少を目指すためにも、引き続き人権に基づく指導・人を思いやることの指導に力を入れる。
- ・設問「好きな授業」であがった上位の教科は、「数学」、「美術」、「音楽」であった。実技が主の授業を好む傾向にあることが分かる。「嫌いな授業」で挙がった教科は「体育」、「英語」、「職業」であり、その理由として「苦手だから」とあげる生徒が多かった。生徒たちの苦手意識をなくすための授業改善が必要である。
- ・設問「休日の過ごし方」については、「ゲーム」、「テレビ」が多かった。また、休日を「家族で過ごす」とした割合と同じくらい「一人で過ごす」と回答した生徒がいた。余暇活動については、過ごし方を自ら選んで計画できるよう、日々の教育活動を通して家庭との連携を図りながら進める必要がある。
- ・部活動については、職業自立類型の生徒が多く取り組んでいるが、「練習が楽しい」という回答する生徒が多かった。反面、課題として「活動が少ない」との回答も多くみられた。

## (3) 地域向けアンケート結果から

### ①地域居住者（学校近隣地域住民及び自治会）

- ・都立清瀬特別支援学校が小・中・高等部の3学部設置の知的障害特別支援学校であることを知っている方が昨年度より増え、認知度は上がっている。しかし、本校にかかわる情報や来校した経験が少ない地域の方々が多い。今年度は、体育祭や秋まつりなどの行事がなかったことも影響していると思われる。次年度は、中学部の作業学習等で地域に出ていく活動の充実を図ることで、地域の方々に本校のアピール等情報発信をしていく必要がある。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した次年度に向けた取り組み

- (1) 発達段階や障害特性に応じた授業力の向上  
外部専門員の活用とPR、教員一人一人がお互いを高めあう研修等の工夫。
- (2) 児童・生徒に関する学部及び学年間の確実な引継ぎと指導の継続  
学校生活支援シートや個別指導計画のさらなる活用と充実。
- (3) センターの機能の継続  
地域の特別支援教育の更なる充実を目指した有機的な連携の強化。副籍制度の充実と推進。
- (4) 情報発信方法のさらなる工夫と改善  
分かりやすい通信やお知らせ、学校ホームページ、清瀬メール、Twitter等のSNSを活用したタイムリーな情報発信。
- (5) 学校の説明及び実施責任の遂行  
児童・生徒、保護者、地域に対して「シンプル」「わかる・伝わる」「安心」の視点での学校の取り組みや変更点についての説明と実施。働き方改革の推進とその周知の徹底。

## 6 職員連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員連絡会 1回 延べ1人(連絡協議会協議委員長) (令和3年3月8日職員連絡会)

【成果】学校運営連絡協議会委員長より、臨時休校や分散登校時における本校のオンラインでの授業実践について良い評価をいただいた。また、次年度に向けた課題の一つとして、研修活動の充実とその成果を発表する機会の設定(実践報告会等)について提言をいただいた。この提言を通じて、学校や教職員の課題が明らかになり、教職員の意識を高めることができた。

以 上